

## 平成 27 年度 第 1 回みたけ創生有識者会議

日時	平成 27 年 7 月 29 日(水) 19 時 15 分～	
場所	御嶽宿わいわい館 茶房棟	
委員	出席者	黒田晃司、永谷嘉規、小林智尚、水内智英、谷口清治、齊藤公彦、柴田永治 順不同敬称略
	欠席者	永井明子
事務局	町長 渡邊公夫 総務部長 寺本公行 企画調整担当参事 葛西孝啓 企画課 各務元規 高木雅春 川上敏弘	

### 1 開会

---

(事務局)

定刻になりましたので、始めさせていただきます。本日は、お忙しい中、またお暑い中、遠いところ御嵩町までお越しいただき、本当にありがとうございます。只今より、「第 1 回みたけ創生有識者会議」を始めさせていただきます。本日、司会と進行を務めさせていただきます企画課長の各務と申します。よろしく願いいたします。それでは、開会にあたりまして、町長よりご挨拶をいただきたいと思ひます。

### 2 町長あいさつ

---

(町長)

皆さん、こんばんは。今日は、みたけ創生有識者会議の第 1 回目で、本来なら、委嘱状を直接お一人ずつにお渡しせねばなりません、セレモニー的なことは省かせていただきます。

私の右側と左側では、年齢も随分違う方々が並んでいらっしゃいます。私自身は、日々、会議をこなしていくことが仕事の中心になってしまっています。漫然と会議をしているわけではないにしても、概ね答えが決まっているような会議も多くあります。ワクワクしたり、楽しみな会議だと思ふことも、ほとんどないままに、会議が始まり終わっていきます。そのような意味では、今回の有識者会議は、御嵩町の将来について語り合えることを本当に楽しみにしています。色々

な審議会がありますが、冒頭の挨拶の後は退場し、皆様にお任せすることがほとんどです。しかし、この会議だけは、御嵩町を創生していかねばならない責任を担っている者の一人として、最初から最後まで議論に参加したいと思います。このような会議は珍しいと思いますが、皆さんにもご了承していただきたいと思います。

私自身が、御嵩町についてどう思っているか、歴史的なことも踏まえてお話をさせていただきます。今年、御嵩町は町政施行 60 周年を迎えています。半世紀以上前に、上之郷村、御嵩町、中町、伏見町の4つが合併して御嵩町になりました。御嵩という名前が残ったのは、歴史的に御嵩宿という宿場町があったからではないかと推測しています。色々な意味で、この地域の中心地であるというプライドがあったのだらうと思います。御嵩宿は交通の要衝として、中山道で最初に徳川家康に認められた宿場です。その歴史を担って、合併に至りました。

60 年前は、今では負の遺産になってしまった垂炭鉱の最盛期でした。信じられないような話かもしれませんが、岐阜県において財政力がトップだったのではないかと思います。事実かは分かりませんが、町民税がいらぬ年があったと言われていました。固定資産税は納めていただいたのだと思いますが、炭鉱の小さな会社が 150 社以上あったため、法人住民税だけで十分まかなえていたという時代でした。御嵩町は、古くから東濃の拠点、東濃の中心という自負心があり、プライドの高い町でした。しかし、それがまちづくりの邪魔になっていた部分も、正直あるかもしれません。

60 年の間で、私が 6 代目の町長になりますが、4 代目までは名字の下に「様」が付くような人が町長になっています。お家柄の正しい出自の明確な方が、町長を担っていらっしゃいました。何人、候補者がいたのかは分かりませんが、熾烈な選挙戦が展開されていても、そのような形で町長を選出していました。20 年程前、自分たちの思う人に町長になってもらいたいと、町長候補の候補者を探すことになりました。町民の間、西から東まで何回行ってもこれという方がおらず、若干、縁のあった柳川喜郎さんに白羽の矢を立て、御嵩町に来ていただく交渉を半年余り行いました。その結果、なんとか受けていただき、町長選挙に出馬していただきました。御嵩町民にとっては、初めて自分たちで、この人に町長をさせたいという意思を持ち、選挙に臨んだ候補者でした。バブル経済の崩壊寸前で、行き詰まっていたという感覚もあり、町民としても思い切って立ち上がらねばならないという意識が強かったように思います。行政のあり方に、疑問符を付けるところも多くありました。バブル経済で、かなり潤っていたのも事実です。ゴルフ場を誘致することで収入を得て、ディベロッパーに対して、道路や水道をつくらせるというところから、まちづくりをしようとしていました。24 年前に、統一地方選挙がありましたが、その際に、色々な若手が集まり、保守系の県会議員の候補者を応援しました。御嵩町への思いを、皆さんが本音で語るようになりました。自分だけがこのまちに疑問符を付けているのかと思っていたのですが、他の方も、ほぼ同じようなことをおっしゃいました。そこで、「みたけ・未来・21」を起ち上げ、体制を整えました。その延長線上に、柳川さんの町長選挙があったのです。

御嵩町民の意思に基づいたまちづくりをされるべきだということになり、当時、非常に深く関わり、見守ってくださった新聞記者の柴田さんも、今日は委員として来てくださっています。木曾川の直近に、産業廃棄物処分場が計画されていました。東洋一と言われていたのですが、調べてみると世界一の埋め立て処分場をつくるという計画で、御嵩町は大変紛糾しました。民主主義の学校と言われるように、住民投票まで行い、町民の意思を確認しました。そして、票を中央に押し戻した状況で、柳川町長から私にバトンタッチをしました。

私自身は、8年前に町長になりましたが、ある意味、すべてにおいてマイナスからのスタートでした。町長として新しいまちづくりにすぐ取り掛かれるかと言えば、そのような状態ではありませんでした。すべての対立軸が、産業廃棄物処分場の賛成派か反対派かという状況でした。これを解決しなければ、御嵩町は一步も前に進めないという思いでおりました。議員をしていた頃から、そのような思いで、町政に関わってきました。そのため、私自身が最初に取り掛からなければならない仕事は、処分場問題の解決でした。何とか1年がかりで解決に導き、計画を白紙化し、業者にも納得していただきました。

また、亜炭廃坑については、落盤等で良くないニュースが流れますが、これも永遠に抱えていかなければならない負の遺産だと思っています。現在、埋め立てをしています。5年、10年で解決できる問題ではありません。私が町長を務めている間には解決し、後をしっかりと繋いでいってもらえる方を探さねばならないと思っています。

そのような中で、まず、取り掛からなければならないと思ったのが、御嵩町役場の中のムードをどう変えていくかでした。元気なまちをつくろうとするなら、職員自体が元気を出さねばできないということを大前提とし、職員たちの意識の改革、体質改善を行いました。あらゆる事業に対して、前向きに取り組んでいくような体制にしていくことが大切だと思います。また、行財政において、御嵩町は豊かなまちであったがために、逆に知恵を絞って国や県からお金を引っ張ってこようということは、ほとんどしてきませんでした。面倒だから自前で行い、会計監査もその方が楽だというようなまちだったため、行き詰まってしまうのは当然です。行財政の体質改善も一緒にすることになりました。職員の意識の改革と、財政の改革に、ともに取り組んだ8年間で、初期の目的は、ある程度達成できたと思っています。

行財政の改革についても、基金等も積み、借金は減らしてきましたが、行政の場合は、ただ単に黒字を出して貯蓄をしていくのが目的ではありません。私は、また任期を4年いただきました。少々お金がかかったとしても、まちづくりに対して投資をしなければならないという気持ちもあります。お金のことは心配するなどは言いませんが、若干の余裕は、この8年間で作りました。どのようなまちでも活性化を大きなテーマにしています。しかし、なかなか上手くいかないのも事実です。人口対策についても同じようなことが言えます。激変するような施策というのは、あるものではないと思います。ただ、やはり御嵩町も微減ですが人口は減っていますので、ここは首長として抗う必要があると思います。

日本という国家の人口が減っているのは、国会議員の責任であり、あらゆる政策を講じて何とかせねばならないと思います。国家の中でも、人の移動が社会現象であるとするれば、人口が減っていくのは、人が生まれて死んでゆくだけではなく、人が出ていってしまうからだと思います。価値観を共有できるような方々に、御嵩に興味を示してもらえるような施策を講じていくことが、今望まれていることではないかと思っています。

色々なアイデアは浮かぶ方ですが、皆様のお話を聞きながら議論を交わし、ざっくばらんな話をさせていただき、いいところも悪いところも、どんどん言っていただければと思います。最終的には、アイデア勝負だと思っています。アイデアをどう絞り出していくか、この有識者会議の課題として、見つけていければありがたいです。一人より、二人、二人より三人の方が、当然いい知恵が出てくるとお思いますので、ぜひ皆さんのお力をお借りしながら議論を重ねて、答えは永遠に出ないというものではなく、ある程度の方向性を見定められるような会議にしていきたいと思っています。皆様には忌憚のないご意見を述べていただいて、外から見た御嵩についてご意見を拝聴したいと思っています。どうか、あまり構えずに話をしていただければありがたいです。よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。本日は、役場ではなく「わいわい館」で開催させていただきました。御嵩町は中山道御嵩宿の中心地であり、宿場町の活性化という取り組みの中で、宿場をブラッシュアップしてまいりました。その一つとして、このわいわい館を建てました。ここが、来訪者に対するおもてなしの施設になっております。普段の硬いイメージではなく、御嵩町の取り組み等を感じていただきながら、先ほど町長が言われましたように、外から見た御嵩町等、色々なご意見を頂きたいと思っております。

さて、テーブルの上にお菓子が置いてございます。これは、お茶請けとして準備した「みたけのええもん」というお菓子で、御嵩町の特産品認定商品です。特産品認定商品とは、御嵩町として認定をし、さらに今後売り出していこうという主旨の商品です。「やまいもん大福」は、東濃実業高校の生徒によって開発されました。クリームに山芋を使用しています。町内の和菓子屋と連携し、製品化しました。わいわい館に訪れた方にコーヒーとセットでお出ししたり、お土産として持ち帰っていただくこともできます。「ぼっこり緑茶」は、地元の上之郷中学校の生徒がつくっている舂五山茶というお茶を使ったクッキーです。黄色はきなこ味です。お茶を飲み、お菓子を食べながら、この会議を進めさせていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

### 3 委員紹介

---

#### (事務局)

では、今回は第1回目ですので、委員の皆様にご自己紹介をしていただきたいと思います。自己紹介にあたっては、ご自身についてだけではなく、日頃御高町がどのように見えるか、どのように感じているか、そのようなことも添えていただきながら、5分程で自由にお話していただければと思います。では、名簿順に、東海化成工業の黒田晃司様からお願いいたします。

#### (黒田委員)

私は昭和30年生まれで、今年3月に定年退職を迎えました。数年前に自分でつくった再雇用制度に乗っかり、無年金期間に入りますので、また仕事を始めたところです。私自身は、愛知県北名古屋市に住んでおり、毎日、名鉄電車を乗り継いで通勤しています。今年で15年目に入ります。今、会社がお世話になっている平芝工業団地は平成元年につくられました。元々小牧市に工場があったのですが、親会社が手狭になり、御嵩にまいりました。当初は、トヨタ自動車の仕事がメインだったので、小牧と豊田の中間の瀬戸を物色していましたが、バブルの真っ最中で、今頃進出しても人が集まらないのではないかという話でした。御嵩には人手もあり、高速道路ができて豊田と繋がるという話も聞いたため、平芝工業団地にある富士精機さんからご紹介いただき、工場を作らせていただいたという経緯があります。

平芝工業団地では、今週の土曜日に夏祭りが開催されます。弊社が幹事会社ということで、色々させていただいています。工業団地では、陶磁器会社が数社ほど事実上撤退され、従業員のいない会社や他の会社が変わったところもあるようです。東海化成は95%が自動車部品ですが、元々、御嵩に来たときは自動車部品以外のものを作る予定でした。陶磁器会社さんと同じで、その当時始めた製品はお客様が海外へ移管したり等で、影も形もなくなりました。弊社でも、今では当時と全く違う自動車部品ばかり作っています。25年間の移り変わりの激しさを痛感しています。

弊社では、今年は2012年に策定した「2015年ビジョン」という目標を達成する年になります。また、合わせて、「2020年ビジョン」の策定の年でもあります。御嵩町の計画と同じような動きであり、今回お話を頂戴したときに、一緒に勉強させていただければと思います、お引き受けいたしました。よろしくお願いいたします。

#### (永谷委員)

こんばんは。御高町に移り住んで農家をしております永谷と申します。私は以前、名古屋で広告代理店に勤めていたのですが、思うところがあり、話すところがあるので割愛させていただきますが、農業をしようと思立ちました。しかし、全然知識がなかったため、栃木県に農業の研修に行き、その後、専門学校の農場の職員として1年間勤めました。しかし、新規就農が元々の目的だったので、地元に戻って農地を探した結果、縁があったため御高町に来ることになりました。

それが今から6年前です。今年で7年目に入ります。

今、永谷農園では、少量多品種で色々な野菜を育てています。旬の野菜は露地栽培をしています。今なら10種類くらいあります。自分で収穫したものを箱詰めし、直接、軽トラックで一般家庭にお届けすることを主な仕事にしています。以前は、御嵩町には自然がたくさんあり、田んぼや畑もあるので、町内では仕事にならないかなと思い、名古屋市の方にも出荷していました。しかし、意外と名古屋市よりもこの辺りの方にニーズがありました。なぜかと突き詰めてみると、外から来られた方が多いからではないかと思いました。自然が身近にあるはずなのに、自然とふれ合えていないという、不思議な矛盾を感じました。他には、都会になり過ぎていないためか、食べ物に対する感謝がしっかり残っていると思いました。

御嵩町に移り住んで、農業1本でと考えていたのですが、農業をやっている中で考えることがあり、今後、新しい展開をしたいと思っています。ざっくりと言うと環境教育の分野です。私たちは農業を通じて色々なことを学んだのですが、そのようなことを次の若い世代に伝えて共有していきたいという思いがあります。私の妻が、以前、大学に勤めていたというバックグラウンドもあり、教育分野に関心があります。小規模なプライベートスクールという形で、農業と環境教育を2本柱にした塾のようなことをやっていきたいと思い準備しているところです。

移り住んで7年経ち、御嵩町のことは断片的にしか見ることはできていないと思いますが、派手さはないが、可能性のあるまちだと日々感じています。人に魅力がある、そう感じさせる人が多いです。農業を通じて知り合った方もそうですし、自治会の活動を通じて知り合った方もそうです。以前、町長がおたよりに書かれていたことがあると思うのですが、宿場町で東西の交流地点でもあり、おもてなしの心があるため、人と付き合うのが上手いのではないのでしょうか。こう言うとハウツーのような感じに聞こえますが、そうではなく、人とどう接していくかという遺伝子が残っているのではないかと思います。私がやっている農業は、草が生い茂った状態で野菜を育てるというスタイルです。今まで畑や田んぼを頑張ってきた方にとっては、「何だ、そのやり方は」と思われると思うのですが、それも温かく見守ってくださり、困ったことは助けてくださいます。自治会の方だけでなく、野菜を出荷させていただいている家庭の方も、温かい人が多い印象を受けます。

今回、このような形でお話をいただき、今まで御嵩町で私が関わらせていただいた方たちには大変お世話になってきたので、一つ恩返しができるかなと思い、お話をお受けさせていただきました。私がやっていることが、どのように役に立てるかは漠然としているのですが、できる限りのことはさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

名簿の3番目の岐阜県庁の永井明子さんですが、防災課に勤務されています。本日から御嶽山の捜索が始まったため、どうしても今日の会議には出席できないということで、次回からご参加

いただくことになっております。よろしくお願いいたします。

では、続きまして岐阜大学大学院教授の小林智尚先生、お願いいたします。

(小林委員)

岐阜大学の小林と申します。出身は埼玉なのですが、その後、大学を転々としまして、東京、千葉、そして16年程前に岐阜にやってきました。当初は、5年程、大学にいれば後はどこに行ってもいいという口約束で岐阜に来ました。先ほどの永谷さんのお話にあったように、田舎でもなく、都会でもなくて非常に住みやすいところだと思います。その頃は、小さい子どもも一緒に、子育てにも大変良い環境でした。また、名古屋市に近いということもあり、つつい根っこが生え、かれこれ15、6年になります。

専門は、工学部で土木です。海の調査である海上土木が専門なのですが、岐阜に来たら海がないことに気づき困りました。もう1つは、気象をしておりまして、気象と工学をつなげられないかということで、最近では太陽光発電を中心に取り組んでいます。太陽光発電は太陽が照っているときには発電をしますが、曇ると発電しなくなります。今日、明日、明後日くらいで太陽光がどれくらい発電をするか、1年間を通して、この場所だとどのくらい発電するかという調査等をしております。その他、再生可能エネルギーといわれるものは、お天気に左右されるものが多く、外からの郷土研究という形で、風力発電や波浪発電等も研究しています。波浪発電は、まだ実現性がないため調査だけになりますが、そのようなことにも、手を突っ込んでいる状態です。

御嵩町さんとは、5年くらいになると思いますが、太陽光発電を中心としたクリーンエネルギーの関係でお世話になり、御嵩クリーンエネルギー協議会にも加わらせていただいております。何年もお付き合いをさせていただいて、色々な町民の方とお話する機会も多く、御嵩町の方は、自分の思いをちゃんと出して発言して下さる方が多いと強く感じています。町内のアンケートをしても、回収率が随分高く、全国平均の2倍近くあります。皆さん、非常に意識が高いと思います。例えば、このような協議会でも、他の市町村では専門家が集まって、どこでやっても同じようなものを提案してくるのですが、御嵩町の場合は、町民の方が集まって、自分たちの得意とするようなところをどんどん発言してくれます。たまに意見が集約せずに、発散していく場合もあるのですが、自分たちの目線で話を進めていくというところがあり、特徴が出てくるがまとめづらい、そのようなことを感じています。御嵩では、クリーンエネルギーの関係で、太陽光発電が発散的に進んでおり、結果的に今は森林バイオマスというエネルギーに軸足が移ってきているところです。御嵩町が持っているエネルギーであり、非常に良い方向に向かっていると思います。人が集まって、どんどん発言し、いい方向に向かっていくことが、御嵩が求める未来なのかなと思います。

(水内委員)

初めまして、水内と申します。おそらく、この中で一番若く、最も御嵩町に縁がないのではないかと思います。出身は岡山県で、大学は東京、大学院はロンドン大学でした。現在は、北名古屋市にある名古屋芸術大学に勤めています。専門はデザインですが、デザイン学というものがあり、最近ではまちづくり、ソーシャルデザインに重きを置いています。まちづくりで、デザインの力が少しずつ見直され、使われるようになってきていると思います。御嵩町さんは、いち早く地域未来大学に参加されたり、デザインというものを理解して、その力を使っているかとされているので、素晴らしいなと感じています。自分の専門がこれだということは、なかなか言いづらいのですが、今日、ここに来て勉強不足だなという感もありながら、色々な方々の話を聞き、御嵩町はとても魅力的なまちだということは感じ始めています。

大学では、デザインの理論と同時に、実践的な活動をしています。また、大学に勤める前は、イギリスと日本の広告代理店で、デザイナーをしていました。実際に、ものを作るところまでをやっています。デザインは、捉えどころがないと言われることが多くあります。また、デザインというとパッケージデザインや、キャラクターデザインに終わりがちですが、デザインには気持ちの部分に訴えかける力があるのではないかと思います。

地域の中でデザインを活かすということは、デザインのリサーチから始めることが多いです。外部の視点で、御嵩町の魅力や価値を見つけていくことがデザインの力になり、イベント等を通じて共有し、色々な人に理解をしてもらい、住民を活動に巻き込んでいく力が必要だと思います。住民の共感を生み出すことによって、まちをデザインすることが可能になるのではないかと思います。色々な自治体さんと一緒に活動しています。

デザインの倫理についても、学術的テーマはあるのですが、最近の主な活動としては地球環境学研究所という国立の研究所があり、ローカルとグローバルをいかにつなぐことができるかについて取り組んでいます。ローカルの問題というのは、グローバルな問題に直結することがあります。その逆もあるのですが、地域の魅力を高めていくことが、グローバルな地球環境問題に対して有効に働くということを実証するため、色々な研究をしています。

大学に勤め始めて5年になりますが、それまでは東京に住んでいました。名古屋芸術大学に、御嵩町出身の学生が何人かいました。また、教え子が博報堂という広告代理店を通じて、御嵩町のプロジェクトに関わっていることもあり、最近色々な話を聞くようになりました。御嵩町の知識はそのくらいなので、あまり先入観がありません。そのような意味でも、外の目として、色々な議論に参加できるのではないかと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

(谷口委員)

十六銀行御嵩支店の谷口と申します。銀行ですので3年程で転勤があります。御嵩支店へ来て1年半程たちました。前任は、神戸町の神戸支店の支店長をやっておりました。銀行に入り 30

年近くなりますが、そのうちの12、3年は本部でマクロ経済の調査ブランド戦略室で広報やIRを担当していました。

私どもは、準規模の銀行です。本店が岐阜市にあり、愛知県と岐阜県に店舗を持っています。銀行としては、私の場合は御嵩町になりますが、地域が発展しなければ我々の先がないという前提の中で仕事に取り組んでいます。御嵩町さんに何が貢献できるかと考えたときに、私のポジションとして、岐阜県あるいは愛知県の中の御嵩という立場で物事を捉えられるかなと思っています。

御嵩町に来て1年半になります。雑感としまして、非常に言いにくいのですが、最初のうちは、なじみにくい、フレンドリーではない雰囲気を感じました。しかし、中に入っていくと、ぶっきらぼうだけど温かくて優しい人が多い、そのような印象があります。ご自身の意見を持っているというお話がありましたが、初めは、みんなでやっぺいこうという雰囲気はあまりないようにも感じました。しかし、実際に中に入っていくと団結力があると感じました。個人的な見解です。自分が今できること、思っていることについて、忌憚のない意見を申し上げたいと思っているのですが、大変失礼があればご容赦いただきますようお願いいたします。

(齊藤委員)

私は、御嵩保育園の運営管理をさせてもらっています。副理事長と書いてありますが、職務代理になったのは2年程前で、そこまで、御嵩町に関わっているわけではありません。普段は、名古屋市守山区にあるひまわり幼稚園の副園長も兼務しており、名古屋市の私立の幼稚園団体で教育研究部長として若い先生たちを育てる立場にいます。

教員を育てるのがとても難しい状態の中で、聞くところによると、御嵩保育園の先生たちはとても温かく、また保護者の方も温かくてフレンドリーであると聞いています。名古屋市の幼稚園で保護者の様子を見てみると、今までと社会の仕組みも変わってきたのか、子育てに対して負担感を感じる方が多くなってきているのではないかと日頃から感じています。幼稚園なので、5、6時間という保育時間で子どもたちを預かっていますが、それだけでは足りなく、11時間の預かり保育をしています。620人の園児がいますが、そのうちの120~130人が毎日預かり保育を利用しています。全園児のちょうど5分の1程になります。幼稚園でも、そのようなニーズが高くなってきているのが現状です。御嵩保育園も休日や土曜に保育をしています。保護者のニーズに応え、子育てに負担感を感じないようなまちになればいいなと思います。

今回は、元々、母親が理事長なので母に話が合ったのですが、難しそうだったため、私が変わりにお受けさせていただきました。職員の方が説明に来てくださったときに、御嵩町の若い職員の方が意欲的に創生に関わっているという話を聞きました。名古屋市の教育委員会の方や厚生局の方とお話をする機会があるのですが、若手が頑張っているという話もあまり聞きませんし、市を良く変えていこうという思いを持っている方がそれほどいないように感じて、とても残念に思っていたところでした。そのような中、この話をいただいたので、御嵩町が今後どんなふうの前

を向いて進んでいくのかを楽しみにしています。

日頃は、子育てに負担感を感じないようにするには、どうすればいいのかを考えながら働いています。女性の社会進出と言われていますが、子どもを産んで、人口を増やすことが難しくなってきたのではないかと思います。その原因は、子育て世帯の収入が少ないことが一つだと思います。うちの職員もほとんど女性ですが、やはりお腹の中に赤ちゃんができると、子どもたちをすぐに抱っこできなかつたり、咄嗟に動いたりできないということで、産休育休を取らざるを得ない状態になります。職員を固定で雇っていくと、何年かして戻ってきたときに職場復帰の確約ができません。子育てイコール負担ということが根強い状態になっていると思います。各預かり施設や保育施設、教育者だけではなく企業やまちも交えた形で、全体で子育て家庭を盛り上げていけるような施策をつくっていくと、もう少し子どもを産んで育てていこうと思えるのではないだろうかと思います。

私は、幼稚園に入って今年で7年目ですが、その前は中学校で6年教員をしていました。中学校の子どもたちに対しても、色々な思いを持っています。愛知県豊明市の教員で、規模としてはそれほど大きくない都市ですが、住みよいまちに名前が挙がるようなまちでした。豊明市は利便性があるので、高校生や大学生が他都市に出ていってしまうことなく、市内から市外の高校や大学に通える環境でした。先日、東濃高校の話をお聞きしたのですが、高校や大学まですぐに行ける環境にないと、子どもたちが大きくなったときにまちから出ていく可能性が考えられると思います。外に出ていかなくてもここで成長して、そこから町内にある企業に通えるようなまちづくり設計をしていかないと、人口ビジョンも上手くいかないと思います。他都市と違うことがいかにできるのか、そのためにはまちが痛みをこうむらないと、どうしてもできないことも、きっとあるのではないかと思います。あまりまちに負担がない施策をしても、他都市が真似をして、またそこに人が流れてしまうので、どこに落としどころがあるのかなということを感じながら、お話をさせていただきました。今後、どれだけ自分の経験が創生会議に対して活かしていけるかは分かりませんが、色々教えていただきながら御嵩町のことも学ばせていただき、いい方向性を探っていければと思います。よろしくお願いいたします。

(柴田委員)

柴田と申します。昨年の夏に、人生2巡目を迎え、会社を退きました。名古屋で一番部数の少ない新聞社の記者を30年間やっておりました。今後は、編集工房のようなものをできないかと考えており、準備中です。今回は、町長からお声かけをいただいた次第です。

先ほど、町長からもお話がありましたが20年前に産廃問題が非常に大きな問題になったとき、柳川町長襲撃の事件前から後まで、ちょうど御嵩町を担当していました。当時、御嵩町では住民投票が全国で3番目に行われました。今では当たり前に行われていますが、その頃は住民投票に対して非常に抵抗のある時代でした。住民投票が全国で初めて実施されたのが、新潟県巻町の原

発誘致の問題でした。2番目に沖縄県の米軍基地問題、それに次いで3番目に御嵩町で産廃問題の是非を問う住民投票が行われました。当時の岐阜県の抵抗もありながら、7割の方が反対という明確な意思を示されました。その一連の取材を通して、まちの様子をつぶさに見させていただきました。

今年の3月に渡邊町長からお電話をいただき、町の広報の面倒を見てくれないかと声をかけていただきました。第1回目の打ち合わせをしたときに20年振りくらいにこちらに来たのですが、その時に産廃問題で非常に揺れた小和沢地区に行きました。上之郷から、さらに山を分け入った奥にあった建設予定地です。当時は九十九折の大変な場所でしたが、今は新丸山ダムの建設計画があり、道路やトンネルも開通し、非常に変わっていました。ダムはまだ建設には入っていませんが、そのとき満水になって放流していました。すごい水量で、木曾川は大きいなあと改めて感じました。水しぶきが飛び散って迫力があり、見に来てよかったと思いました。

昨年、会社を辞めましたが、色々なつながりが残っています。行政の関係では名古屋市名東区に隣接している長久手市というまちがありますが、ユニークな方が市長になられています。色々な福祉施設を集めた「ゴジカラ村」という福祉の拠点が35年程前に創設されました。森の中に、福祉施設の他、専門学校や幼稚園もあり、そこを運営されていた方が4年前に市長になられたのです。福祉的な施策でまちの運営をしていこうという少し変わった行政運営をされていて、非常に面白いと注目しています。その市長が「役割と居場所のあるまちづくり」という会議を立ち上げられ、その委員をやってくれないかと声をかけてもらい、記者を辞めた後もつながりがあります。

今回は、御嵩町さんからも声をかけていただき、そのような視点でお役に立つことができればいいなと思います。今回、資料をお送りいただいて、読ませていただいた印象を簡単に申し上げますと、突貫工事でやってしまった感じがしました。過程よりも結果であるということが出ていたと思うのですが、やはりまちづくりというのは過程だだと思います。ものをつくっておしまいであれば、計画をつくっておしまいとなりかねません。やはり御嵩の方々が知恵を絞り、自分たちのまちをどうしたらいいのかを考えるのがまちづくりだろうなと思います。50年先という非常に明確な目標があります。我々は100年生きるわけではなく、100年先に責任を持つことはできません。50年先であれば、自分の子どもや孫が生きているであろうということで、そこに向けて頑張ろうという使命感や責任感があるのだろうなと思います。2060年を目標にというのが今回の設定ですが、私たちの子や孫に向け、いいまちにしていかなければならないという目標ができるのではないかと思います。結果重視の計画倒れになりはしないかという危惧も一方であります。有識者会議ですが、私自身は有識者ではなく、あくまで現場の人間だと思っています。皆様と有意義な議論ができればいいなと思っています。よろしく願いいたします。

## <事務局の紹介>

### 4 議題

---

(事務局)

事前にお配りした資料に基づいて説明させていただきたいのですが、本日は町長との意見交換に重きを置きたいと思っておりますので、資料にはお目通しをいただいているということを前提に、簡単に説明させていただきます。

本来は、この中で座長等を決めさせていただきたいのですが、本日はざっくばらんに意見交換をしていただき、次回に互選という形を取らせていただきたいと思います。

では、担当より資料に基づいて説明をさせていただきます。

## <資料に基づき、事務局より説明>

(事務局)

町長を中心に意見交換をしていただきますが、冒頭での自己紹介の中で色々お話いただいたこと、あるいは資料を事前に見てどのようなことを感じられたか、そのような視点で意見交換をしていただければと思います。

(渡邊町長)

このような形での進行は、私も経験がなく、手探りの状態でさせていただくことになりますが、よろしく願いいたします。

まず、黒田さんにお聞きしたいのですが 15 年、御嵩に通っていただき、会社もこちらに進出されて 25 年になりますが、それ以前に御嵩町に対して情報があったのですか。それとも、全くご存知なかったのでしょうか。また、御嵩へ来てみてどうであったか、教えていただけますか。

(黒田委員)

私は、愛知県一宮市の生まれです。工場進出した 30 歳くらいまでは、御嵩町という地名は名鉄で「御嵩行き」等、行先程度の認識しかありませんでした。また、こちらへ来てからは、町長もご出身である東濃高校の評議員をさせていただいていました。校長先生にもお話をさせていただいたことがあるのですが、この 15 年でまちがガラッと変わってしまいました。それがとても残念です。

東海化成ができたときに、人手は南山台、とうきゅう、大庭台辺りの住宅で、子育てが終わった主婦の方や、一旦外へ出たが地元に戻りたいという方等に、うちの工場へたくさん来ていただ

きました。その方々のお子さんが成長されたときに、どう動くかという、同居されたり、御嵩町内で家を建てる人は少ないように思います。名古屋市へ行くのが便利だという話がありましたが、御嵩町から通うのは便利ですが、住宅に関する認識がだいぶ変わったように感じます。昭和30年代では、将来的に家を持つものだと考えていましたが、今の若い人は一戸建てよりもマンションがいいという人が多いようです。一戸建ては手間がかかるため、御嵩町には自然や広い土地がありますが、それよりも便利なところへ引っ越してしまうのです。

人事の仕事で、社内の移動通知や結婚等の書類が回ってくるので目を通すのですが、結婚しても可児市や美濃加茂市に住む人が多いです。御嵩町で一戸建てを買うよりも、可児市でマンションを買う方が安いと聞きました。御嵩町は、住む環境はいいのですが、若い人には人気がないのではないかと、会社の人事をする中で感じました。

(渡邊町長)

欲張ってすべての若い人に留まってもらうとか、すべての人を対象に御嵩町へ来てもらうというのは通用しないと思っています。価値観が共有できる人をターゲットにするしか、仕方がないだろうなと思います。金額もあります。バブル期には名古屋市から離れていかないと買えないという時代でしたが、お金さえ出せば名古屋市の近郊にも家が持てるような時代になりました。そのところが難しいのですが、人間は川の流れていくように思います。住むところを選ぶにしても、下流へ向かっていきます。本能的なところがあるのでしょうか。御嵩町は、上流側も自治体がある地域ですが、中津川を中心に東濃地域で動いています。御嵩町に人を呼ぶとすれば、逆流して下流から来てもらわないといけません。動物の習性からいくと逆になりますが、そこをどう抗っていくかがテーマかなと見えています。永谷委員はどうですか。

(永谷委員)

お話を聞いて、町長のおっしゃる通りだと思いました。下流という便利な方に流れてしまいがちだと思います。でも、2011年の震災以降、私の周りでは、考え方が変わった人が多いです。ただ、以前は私も名古屋に住んでいたのですが、都市部の友人が多かったのですが、彼らはやはりそのまま名古屋に残り、東京や大阪等の都市に流れた人もいます。何が自分にとって大事かという価値観を大切にして、中山間地に行ったり、海際に行ったりする人たちもいます。その真反対で、利便性を追求してまちの方がいいという人もいます。超自然、超文明で、ライフスタイルが二極化しているように思います。

(渡邊町長)

御嵩町が狙っていくとしたら、そのような価値観の人ですね。我々の世代だと、長男は跡を継がなければならなかったため、まちを出ていくことは子どもの頃から考えられませんでした。そ

のような環境で育てられました。小林委員は、その変換期の方だと思いますが、どうでしょうか。

(小林委員)

私自身は、長男が残るといふ考え方の世代だと思います。ただ、今の学生を見ていると昔と考え方が全く違いますね。ターゲットをすべてに持っていくわけにはいかないと思いますが、利便性を求める人は小さいアパート等でも、都会に住むでしょう。しかし、自然を体験させてあげたいという考え方の子育て世代にとっては、御嵩町は魅力的なまちだと思います。

資料を事前に読ませていただきましたが、突然、人口の話が出てきたので違和感がありました。一番のスタートはまちづくりではないかと思ひます。人口を増やせばいいということではないような気がしました。むしろ、人口構造を変えることが大切で、増やすといつても、お年寄りばかりが移住するまちになつてもどうしようもありません。むしろ子育て世代、若い方々、できれば女性がたくさん来るような町にすれば、男性はもれなくついてくるようになると思ひます。土木から考えるまちづくりでは、若い女性を連れてくるようなまちづくりをすると、男は財布を持って付いてくるという発想があります。むしろ、子どもと一緒に若い世代が来るようなまちづくりを考えていかねばならないと思ひます。しかも、先ほどもお話があつたと思ひますが、ほかのまちと同じことをしても仕方がありません。真似される、真似するということも、もちろんあると思ひますが、御嵩ならではのまちづくり、魅力をつくつていかねばならないのではないのでしょうか。そのために、このような資料を作られることも大切だと思ひますが、銀行での融資の際に、長所や短所、強みや弱みを分析するように、御嵩町の魅力についても分析すれば、どちらの方向に伸びていけばいいのかが、自ずと出てくるのではないかという気がします。

人口ビジョンにもありましたが、国の資料が先にあり、それから御嵩町に落とし込んでいくというも気になりました。町長様が最初おっしゃつた通り、国は出生等の政策で人口ビジョンに取り組んでいくのに対し、市町村レベルでは移住という形で施策を考えるため、考え方が全く違ってくるのではないかと思ひます。

他に、今、狭間ということ町長様がおっしゃいましたが、ライフスタイル、働き方も、今が狭間といつか移行期に入つているような気がします。ものづくりで人がそこに行かなければできないというビジネスは、特に中部圏では強いのですが、最近インターネットの関係で在宅でもできる仕事、女性だからこそできる仕事も増えてきているように思ひます。そのようなところも組み込んでいって、社会のニーズや、社会が進んでいる方向に向けて、御嵩町の魅力が出てくるといいなと思ひます。

(渡邊町長)

リニア新幹線が通れば、中津川から品川まで 30 分強になります。今、これだけ通信、ネットが発達していますので、東京に事務所を構えず、週に 1 度くらい東京に行けばいいという考え方

の企業があれば、それほど大きな企業でなくてもできる時代だと思います。地域で自然を残しながら、小さい研究開発や設計をするような事務所が、森の中に転々とあるような町もいいのではないかと提案をしたことがあります。まさに、そのような時代が、今、近づきつつあると思います。東京に住んでいる人は、都会でないと楽しみがない、優秀な従業員が集まらない等の懸念もあると思いますし、なかなか勇気を持って田舎に飛び込むことも難しいかと思っています。しかし、誘い水をする必要はあると思います。

谷口支店長、今、面白い話が出ましたが、御嵩町を融資先として稟議書をつくるとしたら、どのようなものになるのでしょうか。

(谷口委員)

どこに論点を置くかということだと思います。先ほど、人口の話が出ましたが、国の施策の一環として人口を増やす具体的な目標を決めるということだと思いますが、人口を増やすかどうか、その目的が何かというと、そこがはっきり見えないというのが最大のポイントではないでしょうか。

自然環境は間違いなく一番だと思いますし、周辺の同等の市町村に比べて「劣」になるところが少ない、平均的な部分が多いということだと思います。私は、工業団地と町のリンクに可能性があるのではないかと思います。そこを上手く組み合わせることで、何か生まれませんかと思います。資料にもありましたが、工業団地の従業員の人が町外の人が多く、ここの部分を解決すれば見えてくるのではないのでしょうか。

人口増の前提で考えるなら、生まれる数は一緒でも、若者が何割かは出ていってしまいます。増やそうと思ったら、引っ張ってくるしかありません。その選択肢として、上流に行きたい人を呼ぶのもそうでしょうし、非常に難しい部分かもしれませんが、外国人労働者を呼ぶのも策としてはあるかと思っています。それによって、人口が増えれば活性化し、新しいまちの形としてアピールできるかもしれません。人が集まらなると、経済的なボリュームから考えれば、まちが衰退してしまうのは間違いのない事実です。どこに力点を置いていくか、いいか悪いかの方向感を、今の段階で明確にしないと、次のステップが見えなくなってしまいます。ご提案のように、人口増を目指すというところから考えていくのも、一つの手段としていいのではないかと思います。

(渡邊町長)

抗うという言葉を使いましたが、グリーンテクノと平芝工業団地の従業員に、御嵩町民は20%しかいません。可児市、土岐市、瑞浪市、多治見市から通っている方も多いです。御嵩町の町長の立場からいくと、せっかく誘致したのに町民の割合が少な過ぎると思います。その人たちに、御嵩町に住んでもらうようにするには、どのような施策を講じればいいのか、魅力を感じてもらえるのかを考えていかねばなりません。お金をかければいいわけではありませんが、ある程度、

お金のかけがいがある施策を見つけていきたいと思っています。

上之郷地区は、一番面積が広く、人が少ない地域ですが、小学校と保育園があります。毎年、母子手帳を発行される数を確認するのですが一桁です。でも、小学校入学時には、二桁になっているのです。ということは、長男の立場の人が結婚し、子どもが就学するまでは可児市や美濃加茂市等の町外にいて、学校に入る年代になると帰って来るといった現象ではないのかと思います。もしそうだとしたら、その可能性をもっと広げていけば、帰って来てくれる可能性も大きくなるのではないかと思います。その辺りの施策をどうしていこうかというのが非常に難しい部分であり、次回、黒田さんにもご意見をお伺いしたいと思っています。

普通に考えていけば、日本中でこのような会議が行われているため、どこのまちでも、大抵は同じ答えになるでしょう。そこをもう一ひねり、もう一步踏み込んでやっていかねばならないと思っているのが、御嵩町であるという認識をしていただければありがたいと思います。

デザインの力のお話もありましたが、御嵩町の将来像も一つのデザインだと思います。そういう観点から、水内委員どうでしょうか。

(水内委員)

色々なことを考えながらお話を聞いていました。若い人たちがどこに居場所を求めているかについては、2拠点という考え方も増えていると思います。田舎に拠点をもちつつ、都会に住むということもあります。創造都市というキャッチコピーを掲げ、創造的な産業や文化は都市に生まれるという考え方がありましたが、創造農村という考え方も最近出てきています。農村こそ、ものづくりに適しているという考え方です。私も、すごく面白いなと思っています。

1枚の象徴的な写真があります。青年が川の中でインターネットを使って仕事をしている写真です。その町では町全域にWi-Fiを引き、画像が世界中に流れて注目をされました。住民の意識に働きかけるのがデザインだと思います。その中で言われているのが、「シビックプライド」という言葉です。私が自分のまちをつくっている、まちの一員であるという自負心ですが、それをどう高めていくかが目標になるべきだと思います。そのためにデザインが使えるのではないかとされています。この考え方は、ヨーロッパがEUになってから都市間競争が激しくなり、マドリッドに住むのか、ロンドンか、パリかと、どんどん自由になり、自分のまちを選んでもらうという各都市の取り組みの中から生まれた言葉です。数十年前に生まれました。現在の日本の市町村にも、当てはまるのではないのでしょうか。自分のまちに、自分ごととして関わる隙間がきちんとあり、かつ何も無いと思っていたが、それは慣れていただけで、自然がたくさんあることや、御嵩町の長い歴史の中で培ってきたいところを再確認できれば、デザインに生きてくると思います。自分はこのまちに住んで幸せだと思える人たちの層を増やしていくために、まちづくりの中でデザインが注目されているのだと思います。

現在、北名古屋市で、学生さんたちの力を借りて色々取り組んでいます。北名古屋市は、名

古屋市が通勤圏ということもあり、家に帰って寝るだけのまちという印象でした。しかし、ものづくりをしている人たち、おいしいお豆腐屋さんや、長い間やっている喫茶店、高島屋の一番高いランドセルをつくっている工房等があり、インタビューをして回ると、それぞれに小さな物語があり、それをつないで映像化したり、イベントをしたりすることで、まちの良さをもう一度認識することができたのではないかと思います。少しでもまちを好きになると、自分たちがまちをつくろうというプライドを高めていくことにつながり、好循環が生まれるのではないかと、デザインの観点からはそのようなことを言われています。

(渡邊町長)

私は、高校の卒業式や、成人式で挨拶をする機会がありますが、その際に話の中に入れるのは、「将来、皆さんが住む場所を選ぶときに、御嵩町がその選択肢に入るよう、魅力あるまちにしたいと思っている」ということです。しばらくの間、選択肢にも入らず、ある程度の年齢になればまちから出ていくのが当たり前という感覚が強かったので、御嵩町に住むのもいいなと子どもたちに思ってもらえるようなまちにしておくことが一番大切だと思います。その魅力について、デザイン力で掘り下げていってもらえればと思います。

保育施設の管理を荻須学園さんにお任せする前に、検討委員会をつくりました。理事長さんが非常に個性的な方で、保育園にも保護者にも、あまり感触が良くはなかったように感じました。そのため、多分、荻須学園さんは駄目だろうという話をしていました。でも、実際に投票してもらったと、ダントツで票が集まりました。不思議な現象でした。ここは違うから、ここにしようという消極的な票ではありえないだろうというくらい、突出していました。その後、理事長さんの挨拶をお聞きしていると、不安な保護者たちを、子どもと一緒に指導しているような感じがしました。今の人たちは、こういう方向がいいですよと確信を持って言ってもらえると、とても心強いのだろうなと思いました。理事長さんの挨拶から、人気の秘密が見えてきました。これからの時代、荻須さんがどう変わっていくのか、今の教育方針を守っていくのか、お考えをお聞かせください。

(齊藤委員)

教育的に、家庭では何もせず、すべてを保育施設に任せて子どもを育てるのはおかしいのではないかとことは常々思っています。理事長である祖母も、ずっとそのような考えでやっています。私たちは、幼稚園で子どもたちをきちんと育てています。でも、それには、親が家庭できちんと育てているという前提があるのです。それを、各園や保育施設が助けていくというスタンスでやっています。これからも、そこに関しては変わらなくやっていくつもりですし、いつの時代でも、子どもが大きくなっても、確実に責任を取らなければならないのは保護者です。教育に関しては、学校が責を負うものではないと個人的には思っています。できるだけ、各家庭で自分

たちが教育をして子どもを育てたと思ってもらえるような関わり方、見守り方、支援の仕方が必要になってくるのではないかと考えています。ただ、保育園では、どうしても預けざるを得ない保護者の方もたくさんいらっしゃいます。できる限り保護者との良い関係をつくり、園だけが教育をしているのではなく、保護者と手を携えて教育をしていけるような園づくりを進めていきたいと思っています。

(渡邊町長)

これからのまちの中心に教育を置くと、選挙のマニフェストにも書かせてもらいました。どういものが、保護者から見れば魅力のある教育なのか、御嵩の教育はいいかと親御さんに思ってもらえるのか、具体的なアドバイスをいただきたいということもありますので、また次回ご意見をお聞かせいただければと思います。

柴田さんには、御嵩町の 20 年間の変遷を見てきていただいています、手前味噌ではないですが、御嵩町も明るくなりましたよね。

(柴田委員)

先ほど、上之郷の話をしました、先日まちのなかを歩き、願興寺、愚溪寺にも行って見ました。名刹と聞いていたのですが、20 年前は、そのようなところを回る暇が全くなかったので、実際に行ってみたのは今回が初めてです。願興寺を拝見し、非常に立派なお寺だなと思いました。それに連なる街並みは、風情や雰囲気がありますね。老人福祉施設で再利用されているコミュニティがあったり、コロッケ屋さんがあったり、当時はなかったお店もできていますね。広報の方ともお話したのですが、中山道を歩く外国の方も多いそうです。町内には鬼岩を除くと宿泊施設がないので、可児のホテルを使って御嵩から歩き始め、瑞浪の方まで十数キロ、二十キロを歩くツアーが人気だそうです。せっかく、古い宿場町があり、趣のある古民家や土蔵等があるので、もっと上手く活用する手立てはないのかと思いました。願興寺も名刹とはいいながらも、かなりくたびれてきています。昔は、本堂に宿泊できたそうですが、今はお泊りいただくわけにはいかないでしょう。改築には莫大なお金がかかり、工面が大変であるという話も聞きました。外から来た私だけではなく、住民目線でも新しい発見があると、「シビックプライド」を感じてもらえるまちづくりができるのではないかと、久しぶりに御嵩に来て思いました。

(渡邊町長)

町長の仕事は、御嵩町の営業マンであり、経営者であり、まちの色々な面を担っています。でき限り前向きで明るいまちになるよう、何かをインパクトに、起爆剤に使ってでもやっていきたいという思いが色々な分野にあります。今の願興寺も、何億か分かりませんがお金がかかるのですが、改修すれば観光の目玉になるかもしれません。何らかの形で利用したいと思っています。

人口ビジョンについても、若い人だけを大切にすることはなく、逆にリタイアした人をたくさん集めることも一つのまちづくりの手法ではないかと思えます。100人、200人単位ではなく1,000人、2,000人単位の構えにしても、面白いことが起きるのではないかと思います。発想を変えていくことによって、まちが変わっていくのではないかと思います。面白さがあると思って取り組まないと、まちの運営や経営をしても面白くなくなってしまうので、自分が楽しみながら、やれることに喜びを感じながら、取り組んでいきたいと思っています。次回は、皆さんに今日お話ししていただいたようなことから、もう1つ踏み込んだ話をお聞かせ願って、アイデアを練りに練ってビックリするようなものが出てくれば面白いと思います。今日は時間が来ましたので、名残り惜しいのですが、ここで線を引かせていただき、本日の会議を終えたいと思います。ありがとうございました。

(事務局)

今日は、色々なご意見をいただきました。その中で、教育、子育ての話が中心に出てまいりました。次回は御嵩町の子育ての拠点である「子育て支援センターぽっぽかん」というところで会議を開催させていただきたいと思っております。子育て支援センターの現場の雰囲気を感じていただけるようお昼ぐらいに開催できればと考えておりますが、皆様の日程調整をさせていただいた上で実施したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

本日は、長時間にわたり、色々ご議論いただき、誠にありがとうございました。これにて、第1回みたち創生有識者会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。

閉会

以上